

# TC 通信

No81 2018年5月号

- ◆ティーンズ世代=10代のための読書情報誌です。(旧 YA 通信)
- ◆ご紹介する本は特に記載がない限り、図書館3階ティーンズコーナー所蔵です。



ティーンズコーナーに新しく入った本からピックアップ。

New!!



## 『ロボットが家にやってきたら...』

遠藤 薫/著 岩波書店 54/□/17

お掃除ロボット、ドローン、AI家電、そして自動運転車など、ふと気がつく私たちの身の回りにはロボットやAIがあふれています。

ロボットの普及によって私たちの生活はどのように変わるのでしょうか？

ロボットは人間を越えるのか？また、ロボットは人間の敵になることはないのでしょうか？

ロボットは人間を幸せにしてくれるのか、これからの人とロボットの関係をこの本を読んで一度考えてみてくださいね。

## 名作 たからばこ



## 『ヴィヨンの妻・桜桃』

太宰 治/作 岩波書店 F/タサ/98 4階一般



6月19日は、太宰治の忌日で誕生日でもであり、「桜桃忌」として多くのファンに偲ばれています。「桜桃忌」の由来にもなったこの本の表題作「桜桃」を紹介します。

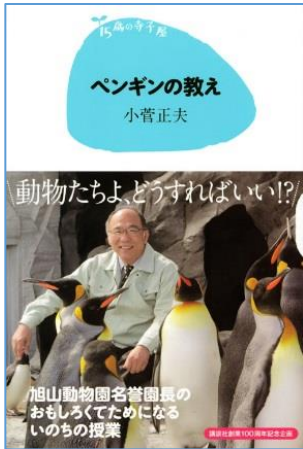
誰も精神的に強くありたい、まして家族など、自分が守らないといけない人がいたら尚更そう思うのではないのでしょうか。

主人公は家族を傷つけていることを自覚しているが故に、大切に思っても向き合うことができず、逃げてしまう父親です。ダメな父親という印象ですが、セリフを読むと、弱く繊細で優しい父親の姿が浮かんできます。

『桜桃』は太宰の最後の作品ですが、それを知った上で読むと、主人公と太宰が重なり、まるで太宰の心の葛藤や苦しみが伝わってくるようです。ぜひ、一度読んでほしい作品です。

# テーマ 動物

新緑が目には鮮やかな季節になってきましたね。  
冬の間は大人しかった虫や動物達が、活発に動き回る季節がやってきました！  
今回は、動物にちなんだ本を紹介します。本をとおして、動物達と触れ合ってみてはいかがでしょうか？



## 『ペンギンの教え』 小菅 正夫/著 講談社 28/へ/09

2009年旭山動物園を定年退職し、名誉園長となった著者。彼が園長に就任した1995年、年間入園者は20万人、どん底の大ピンチだった。ところが2006年には年間300万人を突破するまでとなった。

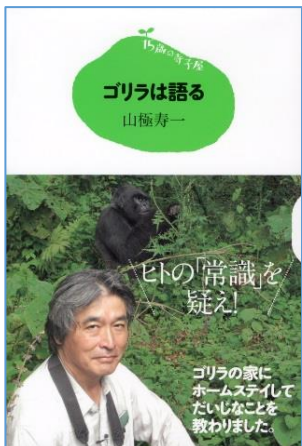
小さい頃から生き物が大好きだった少年が、柔道部に入りたいという一心で北海道大学に入学し、選択したのは獣医学部。そしてある一枚の求人票がきっかけで旭山動物園に就職した。著者は就職してから「一生のうちで一番勉強した時期」という。何とか動物園を盛り返そうとみんなで始めたワンポイントガイドの成功、また同僚と夢の動物園のスケッチを描いたり（そのうちの1人が後に絵本作家となった阿部弘士さん）と、動物の魅力はかわいいだけではない、もっと奥深いんだよと伝えたいという想いが徐々に形になっていく。

動物たちから学んだいのちの大切さ、偉大さが伝わる一冊。人生の先輩から若い皆さんへのメッセージだ。

## 『先生、シマリスがヘビの頭をかじっています！』

小林 朋道/著 築地書館 481.7/せ/08

「シマリスがヘビの頭をかじる」って、かなりインパクトのあるタイトルですね。シマリスは自分の身を守るために、「怖い！でもやめるわけにはいかないんだ！」と緊張しながらもヘビをかじるようです。どういうことかは本を読んでのお楽しみ！シマリス以外にもさまざまな動物が登場して、著者である鳥取環境大学の小林先生が説明をしてくれます。どの動物に対しても、小林先生の愛情が感じられ、読むと先生の講義を聴いてみたいくなります。読み終わったら、街中の動物や鳥を観察してみてください。面白い発見があるかもしれません。



## 『ゴリラは語る』 山極 寿一/著 講談社 48/コ/12

ゴリラといえば、ドラミングをして威嚇する映像から、乱暴者のイメージをいただいていませんか。また、東山動物園のイケメンゴリラ・シャバーニは森の賢人といった感じですね。

アフリカのゴリラ一家と生活をした作者が彼らから学んだ大切な事がゴリラの目線を通して綴られています。

人間って何？ どうして戦争はなくなるの？ なぜ自然が大切？  
友情や恋、家族との関係・・・日々の悩みにゴリラがヒントをくれます！

15歳の寺子屋シリーズの本書はそれぞれの道を選び大人への一歩を踏み出そうとしているみなさんへ、人生の大先輩が贈る大切な言葉がこめられています。

## 『その道のプロに聞く ふつうじゃない生きものの飼いかた』

松橋 利光/著 大和書房 480.7/ソ/16 4階一般

スーパーで買ったアサリ、宅配便で届いたイセエビ、通販で買えるクリオネ、道で踏みそうになったダンゴムシ…。さまざまな場面で出会う生きものたちの飼いかたを、その道のプロが伝授！ウズラの卵を孵化させる方法も紹介しています。

この本を読んで生きものを飼いたくなった人は、『その道のプロに聞く ふつうじゃない生きものの見つけかた』『生きものの持ちかた』という本も図書館にあるので、ぜひ読んでみてくださいね！





# ボランティアさんのオススメ本 (アリスの会)

## 『こちらあみ子』

今村 夏子/著 筑摩書房 F/イマ/10 4階一般



本の紹介をする際、ザックリでもこんな内容ですよ、とお伝えしなければならないのだが『こちらあみ子』はそれが難しい。それでも紹介本としておすすめする理由は、読み手それぞれに受け止め方が異なるのでは、読む度に感想も変わってくるのでは、それを敢えて云わずとも紹介したい！そんな稀有な本ではないかと思われた為である。

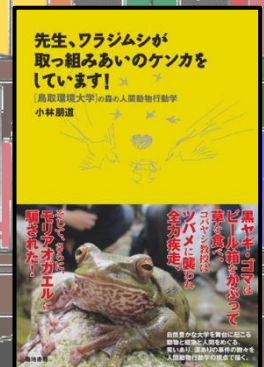
なので一言だけ…

「こちらあみ子、おーとーせよ。」社会の常識、網に囚われない主人公あみ子の声に、皆さんはどんな応答ができますか？

昨年芥川賞候補になり、本屋大賞 2018 にもノミネートされた『星の子』作者のデビュー作です♪

## 図書館員 K の本棚

新緑の季節、ヒトもそれ以外の生き物たちもウキウキ・モソモソしていませんか？ そんな五月におすすめする本は、鳥取環境大学 小林朋道教授の“先生シリーズ”です。緑豊かな鳥取の小さな大学で頻発する人と個性的な動物（主に野生動物）が巻き起こす珍事件が楽しいシリーズです。ちょっぴり淋しい動物たちとの別れもところにしみます。へえ～そうなんだ!! ええ!! という発見を楽しんでみませんか？



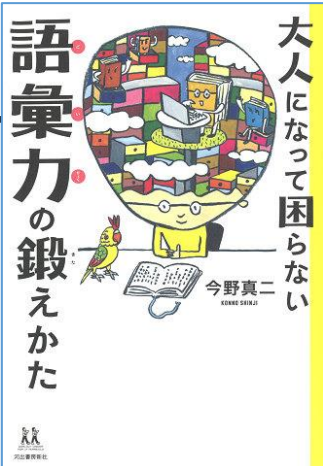
『先生、カエルが脱皮してその皮を食べています!』 481.7/セ/10

『先生、大型野獣がキャンパスに侵入しました!』 481.7/セ/18

『先生、子リスたちがイタチを攻撃しています!』 481.7/セ/09

『先生、ワラジムシが取っ組み合いのケンカをしています!』 481.7/セ/14

小林 朋道/著 築地書館 (4冊共通)



## TC担当イチオシ!

『大人になって困らない』

『語彙力の鍛えかた』

今野 真二/著 河出書房新社 81/オ/17

### どんな本?

必要な言葉が「すっと」でてくる! 「ひも付けをする」「数え方に注目する」「俗語をてがかりにする」「名作を書き換える」など、「語彙」を増やす方法をイラストとともに楽しく紹介しています。

### ここがオススメ!

知っている言葉が増えると、それだけ自分の伝えたいことを正確に伝えることができます。

この本では、「はなしことばをかきことばに言い換えてみる」「カタカナ語を漢字に置き換えてみる」「絵本の文を難しい言葉に置き換えて書いてみる」など、語彙力を増やすさまざまなトレーニングを紹介しています。

たくさんの言葉を巧みに操れるようになれば、周りから一目置かれること間違いなし!

お知らせ!

**YA (ヤングアダルト) コーナーは、2018年4月から「ティーンズコーナー」に変わりました!**

★YAコーナーは、「ティーンズコーナー」に名前を変えてリニューアル!引き続き、中高生のみなさんが楽しめるようがんばります!

★場所も拡大しました!「TC通信」のブラックボードが置いてあるテーブルの、左側をのぞいてみてください!

「〇〇について調べたい!」「△△の本はどこ?」など、本に関する相談や探し物は職員に気軽に聞いてみてね。



発行:春日井市図書館

春日井市鳥居松町5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

※表紙画像の掲載にあたっては出版社から許諾を得ています。